

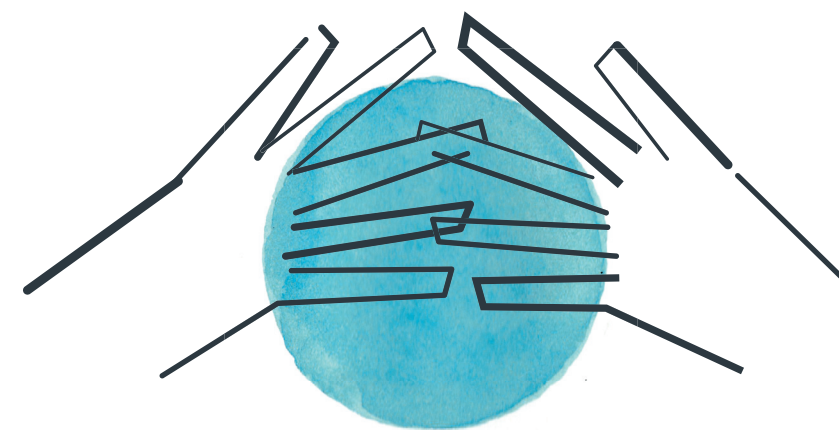
裏表紙

表紙

道の駅 しょうなん

〒277-0911 千葉県柏市箕輪新田59-2 Tel 04-7190-1131
www.michinoeki-shonan.jp

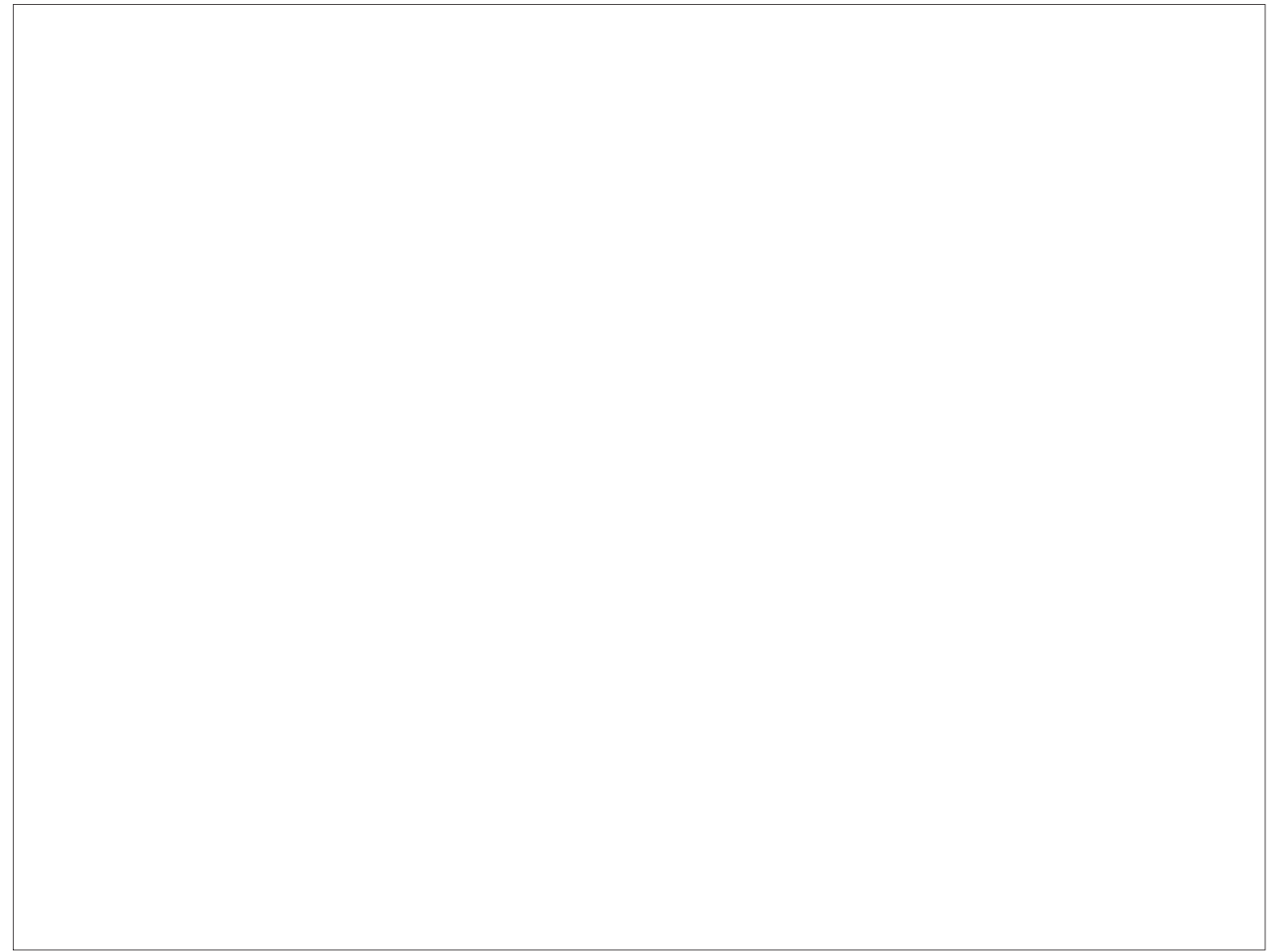
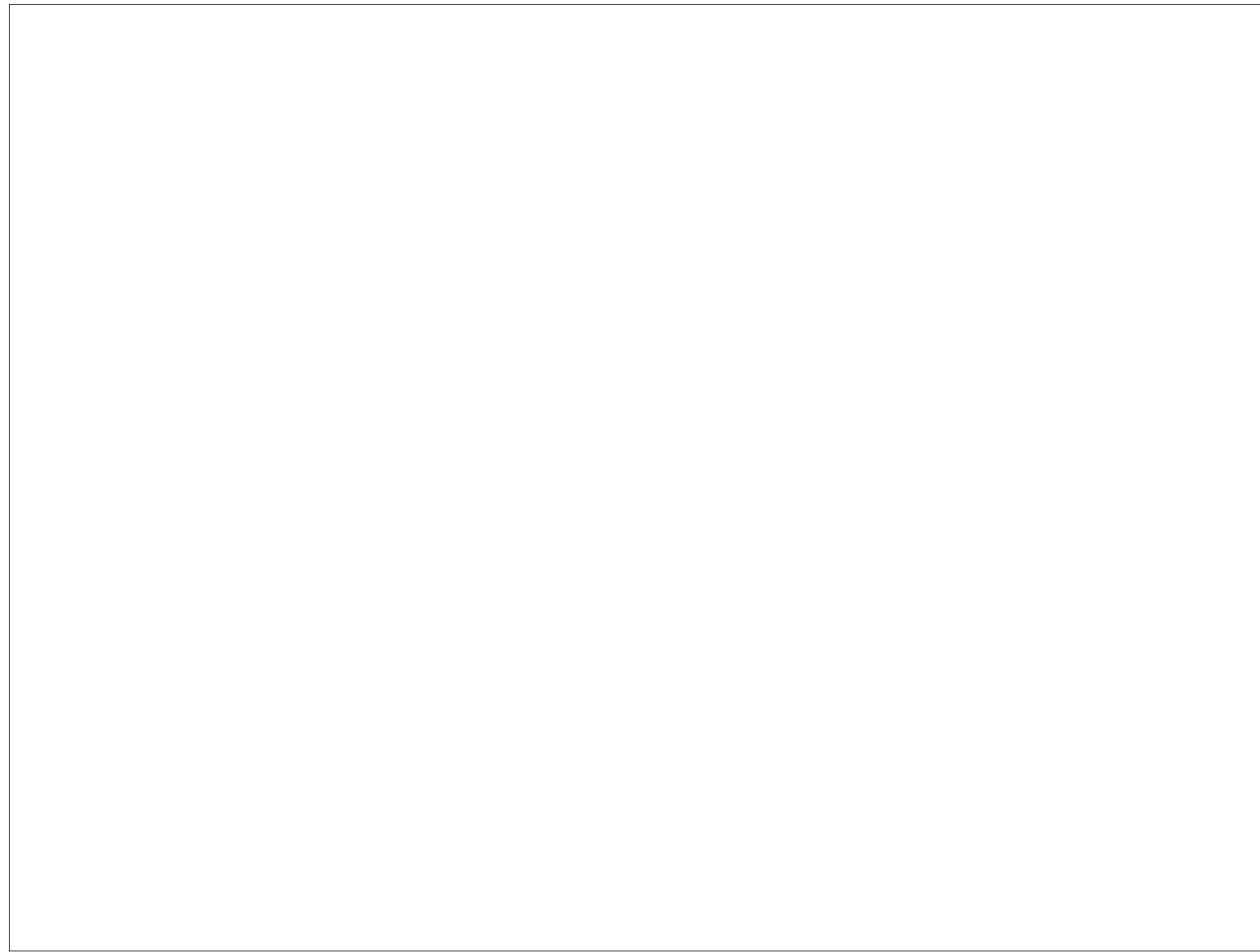
私たちの理念



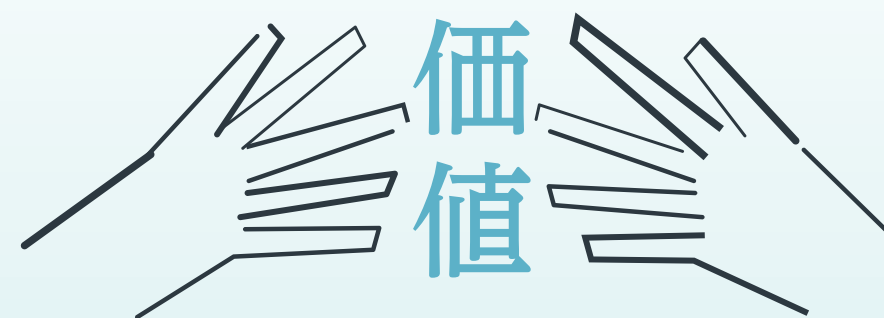
道の駅 しょうなん

表紙の裏

P1



	価値
	強み・差別化要素 _____ 6
	機能的価値 _____ 8
	情緒的価値 _____ 9
	理念
	理念の3要素 _____ 12
	ビジョン・存在意義・行動理念とは _____ 14
	ビジョン _____ 16
	行動指針 _____ 18
	存在意義 _____ 20
	ロゴマークのコンセプト _____ 22



道の駅しょうなんの価値

強み・差別化要素

ブランドとしての強みや特徴。
信頼や評価の源泉となる事実。

6

- 様々な点と点をつなぐ、
しょうなん地域のターミナルステーション^{※1}
- 直売所^{※2}と連携した「大屋根広場(仮)」^{※3}の活用
- 手賀沼を中心とした自然環境

※1 人・モノ・コト・農・経済・地域の様々な情報・地域課題等、様々な点と点をつなぐ、しょうなん地域の拠点のこと

※2 安心安全なしょうなん野菜・加工商品などを取り扱う直売所

※3 巨大な屋根のオープンスペース。様々なイベントや取り組みを行い、賑わいを創出する

7

機能的価値

顧客が得られる物理的・機能的な効用・メリット

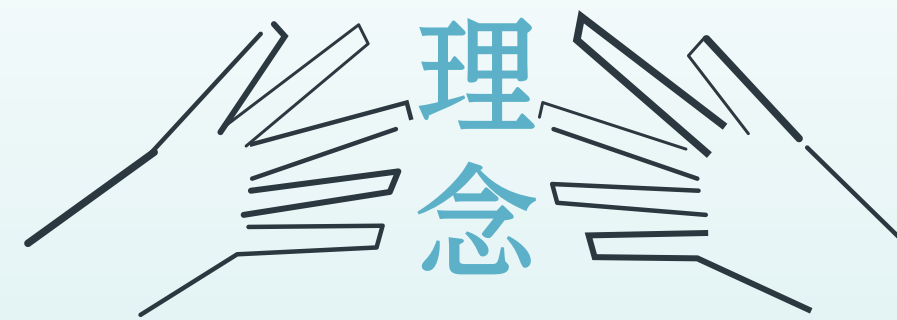
- 「しょうなん」を表現できるコンテンツや手賀沼地域の情報を集める拠点(ターミナルステーション)
- 直売所と連携した「大屋根広場(仮)」の活用
- 地域農家のストーリー、
安心安全なしょうなん野菜の知産知消体験[※]

※「知産」…生産者、生産プロセス、生産地といったことを知る
「知消」…地元ではどのように消費(料理)されているかということを知る

情緒的価値

顧客が得られる感覚・気分など心理的・感情的な効用。

- ターミナルステーションならではの新しい発見によるワクワク感
- 地域のシンボルとしての誇り
- 水辺環境や芝生広場などによるやすらぎ

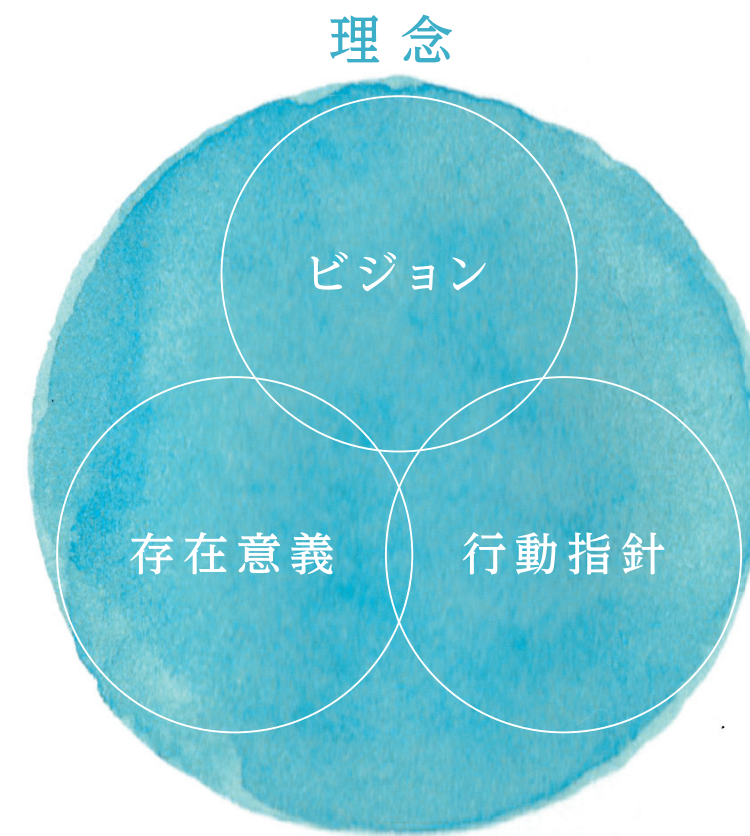


道の駅しょうなんの理念

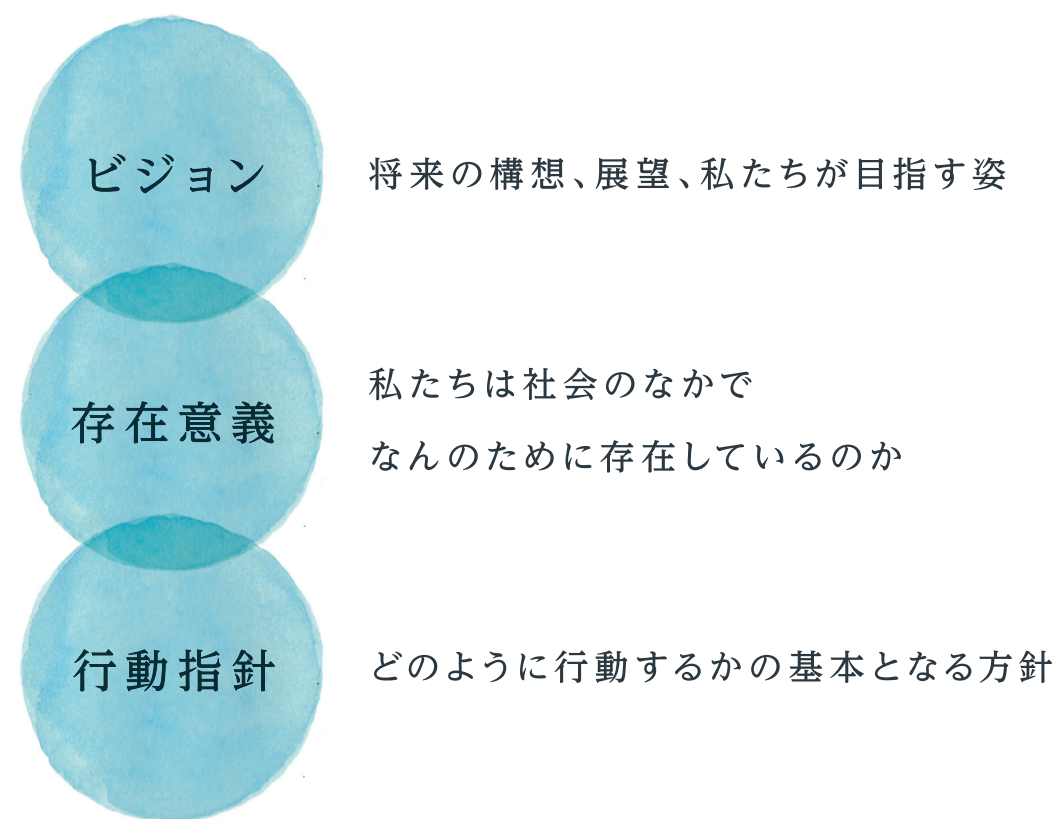
理念の3要素

理念とは組織がその根本に据える
考えや目標、思想のこと

3つの要素が合わさり、理念を形成する



ビジョン・存在意義・行動指針とは





今までにない道の駅をつくる

地域のまちづくりに、トータル的に深く携わる道の駅

経済の中心的拠点として

地域の農産品や新たな加工品、収穫体験、歴史・文化・自然等に関連する観光商品などを開発

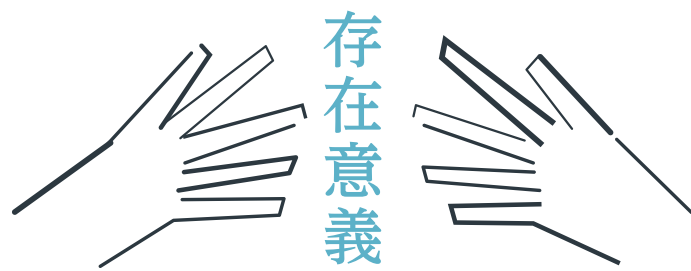
情報発信の中心的拠点として

観光農園や収穫体験、史跡・文化財、地域の行事、スポーツやイベントなど様々な情報の発信

地域課題の解消とまちづくりに関する中心的な推進施設として

耕作放棄地や荒れた竹林の解消とその後の利活用を前提とした体験プログラムの開発や商品化など、地域の困りごとを地域の人と話し合い、課題解決に向けた取り組みとして展開

全国の「道の駅」を見ると、地域経済の牽引役として地域産品の開発や観光振興などによる活性化に積極的に取り組んでいる事例は多々見られるが、トータルとして地域のまちづくりに深く係る役割を担っている事例はない。



私たち道の駅しょうなんは、
 しょうなん地域のターミナルステーションとして
 地域資源を集積・融合・創造し、
 積極的に伝えることで
 地域の豊かな未来づくりに貢献する。

しょうなん地域 私たちの生きる場所

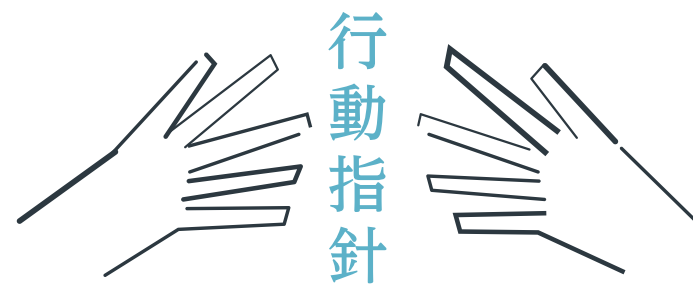
地域資源 人・モノ・情報

ターミナルステーション

辞書的な意味ではなく、
 人・モノ・コト・農・経済・地域の様々な情報・地域課題等、
 様々な点と点をつなぐ、しょうなん地域の拠点
活動の足場にする所

地域の豊かな未来づくり

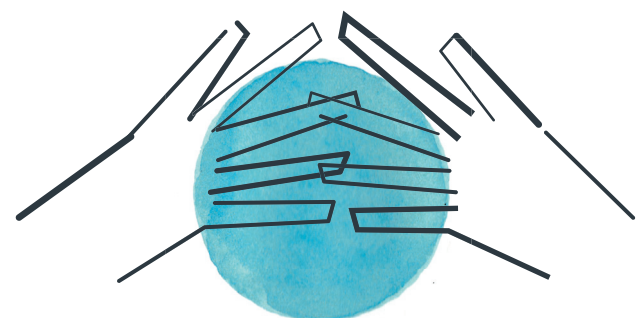
- 1. 経済の活性化(農産物販売力強化、加工品開発・販売など)
- 1. 地域住民と連携した、地域課題解決、
- 1. 地域の魅力発信



- 1、しょうなん地域の一番のファンとして
地域や商品の価値を知り、
(農・自然・歴史)
お客様に伝える努力をする
- 1、「食」に対する意識を高め、知産知消の取組、
安心・安全な商品の提供を実践する

- 1、常に地域にとって何がプラスなのかを
考え、行動する
- 1、お客様の目線、立場に立った
サービスを提供する
- 1、明るく清潔な環境を保つ

ロゴマークのデザインコンセプト



道の駅 しょうなん

強み・差別化要素、理念からデザインを構成しています。
 様々な点と点、経済や地域の情報・地域課題やまちづくりを
 「つなぐ場」であることが表現されていることが、
 道の駅のビジョンをシンボライズしていることとなります。

22

様々な点と点をつなぐ手

手は見る角度によって様々な表情を見せます。捉え方によって、点と点をつなぐ手にも、握手やハイタッチのようにも感じられ、見た人が思い思いの「つなぐ」をイメージしてもらえよう願いを込めました。線の太さを不均一にする等、ラフなデザインで、人によって大人に見えたり子供に見えたり、この手が表なのか裏なのかもあえて曖昧にすることで、想像力をかき立てる手を表現しています。

色は濃い紺色で水色との調和をはかります。

また、建築の特徴である「屋根」を、手と手を合わせることで表現しました。

地域の価値を、水色の一つの円に集約

地域の価値(人のつながり、野菜、様々なモノ・コト等々)を一つの円に集約しました。
 手書きにすることで、手作りのあたたかさを表現し、
 色は水色にすることで、手賀沼・青空をイメージし、豊かな自然環境を表現しています。

書体は読みやすく、親しみやすい明朝体に

老若男女が訪れる道の駅なので、横棒が太く読みやすいユニバーサルな書体
 「黎明朝体」をベースに親しみやすさを加えたオリジナルの形状にデザインしました。

23

ロゴマークが用途に合わせて展開

ロゴマークを起点にして、サイン・パッケージ・包材など
コミュニケーションデザインを統一することで、
様々な活動を一つに見せ、ブランドイメージを正確に伝えます。



※あくまで現段階のイメージです